

一般社団法人日本地質学会 2012年度第3回理事会議事録

日時：2012年12月1日（土）13：30 -17：00
会場：連合会館 会議室（千代田区神田駿河台3-2-11）

出席役員 理事（26名）：天野一男 安藤寿男 市川八州夫 伊藤 慎 井龍康文 石渡明 ウォリス・サイモン 永広昌之 笠間友博（審議事項終了後退出）川辺文久 斎藤 眞 柴 正博 高木秀雄 高橋正樹 田村嘉之 内藤一樹 中澤 努 西 弘嗣 平田大二 保柳康一 松田達生 松田博貴 矢島道子 山路 敦 山本高司 渡部芳夫

欠席役員 理事（24名）：伊藤谷生 太田泰弘 大津 直 小山内康人 狩野彰宏 川端清司 清川昌一 小嶋 智 坂口有人 佐々木和彦 芝川明義 竹内 誠 竹下徹 久田健一郎 藤本光一郎 藤林紀枝 星 博幸 宮下純夫 宮田隆夫 向山栄 村田明広 山口耕生 山田泰広 脇田浩二

監事（2名）：青野道夫 山本正司

その他出席者 オブザーバー 小川勇二郎会員
事務局：橋辺

* 成立要件：理事総数50名の過半数26名、本日の出席者26名で本理事会は成立。

* 議決：出席者の過半数26名

* 書記2名の選出：保柳康一、柴 正博の両理事を選出した。

審議事項

1. IUGSと共催の津波関係の国際シンポジウムを開催する件（IUGS理事 小川勇二郎会員）

ICSU（国際科学会議による未来予測計画）によりUNESCOにIRDR（災害リスク統合研究のための組織）が設立された。日本での対応は学術会議で動きは始めている。国際的な対応としてはIUGS地球科学分野であるが対応が遅れている。

以上のことなどが、IUGS理事の小川勇二郎会員から紹介され、地質学分野でも自然災害に積極的に行動を起こす必要があることなどが議論された。その観点から、2013年10月19日CCOP総会とタイアップしたG-EVER国際シンポジウムに日本地質学会が参加すること、および共催をめざすなどの方針が了承された。

2. 2012年度名誉会員推薦委員会階層別委員および理事会推薦委員の選出

・階層別委員候補者4名

大学：竹内 誠（名大）、官公庁：栗本史雄（産総研）、

小中高教員：小尾 靖（相模原青陵高）、

会社 松浦一樹（ダイヤコンサルタント）

が執行理事会から提案され、承認された。

・理事会推薦委員1名

宮下理事が推薦され、承認された。

・職責委員（各支部長）7名

竹下 徹、川辺孝幸、伊藤谷生、原山 智、

宮田隆夫、石田啓祐、小林哲夫

3. 地方支部区理事の選出方法の検討、選挙規則・選挙細則の改正案

現行の地方支部区代表理事の選出方法による理事は、必ずしも支部の意思を反映するものとはなっていないとのことから、支部と学会本体とをつなぐ本来的な役割を担う理事として機能するよう選出方法を改めることとした。具体的には、これまで地方支部区選出理事は代議員選挙地方支部区の最高得点者としていたのを、当該地方支部区選出代議員による選挙とすることとした。また、得票数が同数で、順位付けをする必要がある場合の取り扱いは、現行の規則には定めがないので、くじ引きにより順位を決めることとし、これを選挙規則に明示することとした。

上記に基づき、関連する選挙規則（第5条3・4項、第6条1・2項、新7条追加、旧7条繰り下げ8条）ならびに選挙細則（13条）を改定することが承認され、次年度の総会に提案することとした。

4. 地質学雑誌編集出版規則の規則名称変更について

「地質学雑誌編集出版規則」に“投稿”を加えて「地質学雑誌投稿編集出版規則」とする。

また、この変更に伴い、運営規則13条（1）号および（3）号、編集委員会規則3項（1）上の同名称も修正する。また、万一ほかに同名称を用いている規則類があれば同様とすることが承認された。

5. 地質学雑誌通常号掲載論文のPDF早期公開について

特集号論文は学会HP上（会員のページ）で、

受理後ただちに公開されている。通常号においても同様に学会HP上で早期公開とすることが承認された。

6. 名誉会員のあり方の検討について

・ワーキンググループの現状報告（ウォリス理事）

現時点での検討内容が報告された。問題点として、会費が免除されることによって被選挙権、選挙権がないなど権利の一部が制限されている。人数的には他学会と比べて地質学会は全会員の1.8%で多い方。増えると財政的に厳しいので、会費を徴収するFellowのような新たな制度を作るのはどうか、学会の顔となって対外的に活躍してくれる名誉会員を期待するなど、様々な意見が出された。ワーキンググループの検討とともに継続審議とされた。

7. 論文賞の対象論文の範囲についての検討。

論文賞と奨励賞については、現在論説が主に対象とされていて、総説などはその対象として評価されない傾向にあるのではないかということから、賞の対象範囲を論説に限らないとすることが山路理事から提案された。しかし、各賞選考規則には受賞対象は「論文」とされており、「論文」には総説などが含まれるのではないかという意見と、総説をより評価するために論文賞に“総説部門”と“論説部門”を設けてはどうか、などの意見が出された。これらを踏まえて、次回の選考に間に合うように継続審議とした。

8. 2013年度事業計画基本方針

原案について石渡会長から説明があった。また、財政の健全化に道筋をつけるという条項を入れるべき、という提案が斎藤理事よりあった。仙台大会を契機に災害関係にも地質学会として積極的に関わる体制を作りたいと西理事からあった。また、地質学雑誌に関する方針を入れることにした。発展のための将来計画についても検討が必要であるという意見があった。

9. 2013年度総会開催日程について、執行理事会から日程の提案があり承認した。

候補予定日 2013年5月18日（土）会場 北とぴあ（確保）

時間割予定

- ・執行理事会 10時～11時半
- ・総会 12時30分～14時
- ・フォトコン表彰式 14時15分～15時15分

・2013年度第1回理事会 15時30分～17時

10. その他

1) 125周年記念事業について

矢島理事より、将来を見通すシンポジウムを企画してはどうか。出版物はどうするか。これまで50年史、60年史、100年史と出版しているが、125年史の編算は人的に厳しいと思われる。年表的なもの、思い出を書いてもらうなどが考えられるが、方向性を理事会で出してほしい旨の発言があり、今後検討することとした。

2) 地質学雑誌編集委員の選出等に関し、編集委員会規則を整備する必要があるとの提案があり、現状任期満了で交替の必要がある委員の任期を規則整備終了まで延長することとし、整備完了のめどは次回理事会とした。

報告事項

1. 執行理事会報告

1) 10月・11月執行理事会議事録から要点が説明された。（斎藤常務理事）

2) その他

・会計収支状況報告（西理事）

2012年10月までの収支が途中経過として報告された。出版部門の収入不足が大きい。雑誌のPDF化によって図書館からの収入が激減している。会費収入も現時点では予算に達していない。全体として若干収入不足が見込まれる。

・地質学雑誌編集状況報告：順調で印刷まで6ヶ月待ち。

・Island Arc 編集状況報告：原稿少なめ。年間予定ページより476p減、昨年比206p減。

・三菱マテリアルテクノの誤分析に対する学会の対応

地質学会関係では大きな被害は生じていない模様。特に、地質学会として対応はしない

・「地質の調査研修会」報告（中澤理事）

参加者が予定数に達し、収支は黒字。来年度は年2回の開催を予定。

・内藤理事よりジオルジュ2号発行の報告があった。

・中澤理事より来年度の地質の日イベントとして、今年度好評であった町中ジオ散歩を継続して実施する予定であり、応用地質学会との共催、関東支部の協力で企画、検討する旨の報告があった。

2. メール審議等の確認

1) 学術会議報告書「高レベル放射性廃棄物の処

分について」に対する地質環境長期安定性研究委員会ほかによるコメントについて：会員への周知をgeo-flashで行い、プレスリリースも行った。

- 2) イタリア, L' Aquilaの被害地震についての裁判への声明を公表した：会員への周知, プレスリリース, 現地研究機関へのサポートレターの送付を行った。
- 3) 「福井県おおい町大島の県道法面工事における露頭保全のお願い」とする要望書提出に関するメール審議, 提出前に保存決定の連絡があり, 露頭は残され実質的には解決した。

以上, この議事録が正確であることを証するため議長および出席理事・監事は次に記名, 押印する。
(氏名・押印の掲載省略)

2012年12月26日